

日方磐神社

社殿改築建設工事 作業記録

工事期間 平成30年12月9日～令和元年9月14日



巻頭の挨拶

早くに社務所の改築を完了し、令和になり社殿の改築竣工奉告祭を斎行申し上げ、百五十年ぶりとなります御遷座を滞りなくおさめましたことの由を、大神様に御報告申し上げることができました。これも日方磐神社建設委員会の皆様をはじめ氏子の皆様御神縁に結ばれました方々皆様のお心添え、お力添えの賜物と、あらためて衷心より感謝を申し上げます。まことにありがとうございました。

平成十年代も老朽化した社殿を修繕し、地震を心配しながら維持している状態でした。そうしたなか十四年の秋から祭典参列者は円座を廃し胡床（椅子）に変えたことで社殿が狭陸となり、社殿の早い改修工事をお願いしました。

一方氏子の皆様には社務所の改築を進めていくくださり、社殿の改築はその後の事業となりました。

平成二十六年社務所が竣工、引続き平成三十年から建設委員会を中心に、御造営に必要な資金を募り、建材には境内の支障木も活用され、床面積92・33平方メートルの社殿が、令和元年九月に竣工、同月＋四日に御神殿清載並びに本殿遷座祭を斎行することができました。

当神社の御創建は、駒ヶ根市大御食神社の社宝『祥代女学』に明記され、今から千七百年前の仁徳二十年九月とされ歴史は古く、また百五十年前には周辺の神社を合祀し、現在氏子戸数は三百六十余戸を維持し、宗教法人神社本庁の統括神社となっております。

御祭神には誉田別命＝岩清水八幡宮、建御名方命＝諏訪大社、天児屋根命＝奈良春日大社の三柱をお記り申し上げ、愈々田切の里にお暮しになる氏子皆様の心の拠り所として、また田切の里にご縁のあります崇敬者御一同様には、大神様の高く尊き御神徳を頂かれ、益々の御隆昌をお祈り申しあげるところであります。

今後は皆様のご厚情に報いるべく神社総代また関係者の皆様と祭礼の厳修に努めてまいり所存であります。どうぞご指導ご鞭撻のほどお願い申しあげまして、発刊のお祝辞といたします。

日方磐神社宮司 茅野建夫

日方磐神社社殿建設にあたり

日本の伝統文化である神社は、氏子や縁者の皆さんの安寧を願う拠り所であり、地域の憩いの広場でもあります。

日方磐神社の懸案でありました社殿の建設につきまして、平成二十六年の社務所建築完成後、社殿建設についてたびかさねる建設委員会の検討や、自治会別懇談会の意見集約等、氏子の皆さんとともに検討をかさね建設事業を進めてまいりました。

おかげさまをもちまして、令和元年九月十四日完成奉告祭を斎行する運びとなり、みごとに完成されました事は、ひとえに氏子並びに有縁無縁両関係者各位の神社への崇敬の心と、ご理解ご支援の賜と深く厚く感謝と御礼を申し上げます。

また、設計・建設・建築関係、各事業者様の匠な技術と鋭意誠実なる工事施工により、鎮守の森に映える秀丽優美な社殿が完成いたしました。

念願の大事業が、時恰も令和元年、改元の歴史的節目に無事完成できましたことはご同慶の至りであります、これまで関わって頂きました関係各位の皆さんに改めて感謝御礼申し上げます。

令和元年十二月吉日

飯島町田切 日方磐神社

建設委員長 倉澤公則

前の社殿



新らしい社殿



令和元年 9 月 1 4 日
社殿竣工 本殿遷座祭斎行



祝 日方磐神社・社殿完成奉告祭

ごあいさつ

日本伝統文化である神社は、氏子・縁者の皆様の愛護を蒙り、所であり、地域の憩いの場でもあります。

日方磐神社では、歴史ありし社殿の改築に努めて、平成二十六年の社務所建完（成後）社殿建設について、皆さんと検討をかねて建設費を積みまわりました。

おかげさまで、とうとう、この完成奉告祭を行うことができました。この事は、ひとえに氏子並びに有関係者各々の理解と支援の賜と深く感謝を申し上げます。

また、設計・建築関係の事業に携わった長年にわたる希望、美しき社殿が完成しました。会期、大事業が、和光元の歴史の節目に、無事完了できたことは、同時にの幸であります。改めて御礼申し上げます。誠に有難うございました。

令和元年 九月十四日

飯島町日方磐神社
 氏子総代 小茅 孝
 建設委員長 倉小野 公久
 氏子総代 建
 建設委員会 則栄 夫
 中

向 拜

社 殿

■設計・監理

ARCHITECT DESIGN

株式会社 アース 下 平 設 計

上伊那郡飯島町飯島2332-2 TEL0265-86-3833

■特定建設工事共同企業体

下平建設株式会社

上伊那郡飯島町田中1038 TEL0265-86-4310

石 上 工 務 店

上伊那郡飯島町田中9217-12 TEL0265-86-2801

■設計監工 株 K O U S E I 上伊那郡飯島町本郷157 TEL0265-96-0295	■伐採・建築工事 NPO法人 森林環境 駒ヶ丘中野7-11 TEL0265-81-4803	■解体工事 株日本環境プラン見野支店 上伊那郡飯島町飯島120-45 TEL0265-86-5900	■解体工事 (有) 田 中 鉄 筋 下伊那郡松川町上片柳557-1 TEL0265-49-0280	■養生・コンクリート 松川コンクリート工業株 下伊那郡松川町北大倉2715-2 TEL0265-36-2626
■屋根・板金工事 株 中央 飯 金 伊那市上牧6461-3 TEL0265-72-3582	■外装・建材工事 株 ナガイ伊那支店 上伊那郡飯島町村田1822-1 TEL0265-85-0150	■石工事 (有) 下 平 石 材 店 上伊那郡飯島町飯島2189-217 TEL0265-86-2247	■木材納入 沢 渡 木 材 (株) 伊那市東宮近1628 TEL0265-72-3228	■建設工事 信 州 中 建 工 業 (有) 駒ヶ野市志摩4841 TEL0265-82-2006
■左官工事 株 洪 谷 左 官 上伊那郡飯島町田中7444-1 TEL0265-86-4494	■木製建築工事 吉 野 屋 建 具 店 上伊那郡飯島町飯島2169-3 TEL0265-86-2144	■塗装工事 宮 脇 塗 装 上伊那郡飯島町飯島2870-6 TEL0265-86-5461	■電気工事 新橋屋建設株 上伊那郡飯島町大平東風崎5163 TEL0265-79-4130	■電気設備工事 新 井 電 気 工 業 (株) 駒ヶ野市志摩4729-1 TEL0265-82-5261

チヨウのしん生熊紹介

(山形県産物3)

日 本 産 物

9月14日 2019年(令和元年) 土曜日

社殿改築し遷座祭 境内林材も活用し

日方磐神社

【長野】上伊那郡飯島町の日方磐神社（茅野建夫宮司）では九月十四日、

社殿の改築工事が完了した。約五十年前に境内の神社を合祀した同神社で、



は、当時竣工した社殿が狭隘となり老朽化も懸念事項となっていた。同じく老朽化し、倒壊の虞があったため先行して実施した社務所の新築工事が平成二十六年に完了したのち、遷座と拝殿の工事に着手。EBCにて仮遷座祭を執行了。新たな社殿の造営には、氏子崇敬者会が中心となり境内の杉や杉の伐採した境内の檜や杉を活用。床面積九十二・三三平方メートルの社殿が竣工した。

祭典は午後一時三十分始まり、氏子など約四十人が参列した。新殿清祓ののち、神前に社殿竣工を奉告。仮殿となっていた社務所から廻壇に覆はれた「御」が出御し、社殿へと遷された。（花畑樹彦通信員）



令和2年 2月10日
第3481号

発行所 神社新報社
<https://www.jinja.co.jp/>

〒151-0058 東京都渋谷区代々木1-1-2

電話 03-3379-8211 (編輯)

03-3379-8212 (総務)

FAX 03-3379-8213

定価 1年8,040円(税・送料込み)

月4回毎週月曜口発行

郵便振替 00160-7-196788

文化2680号 函月20201

神社建築設計監理専門
一級建築士事務所

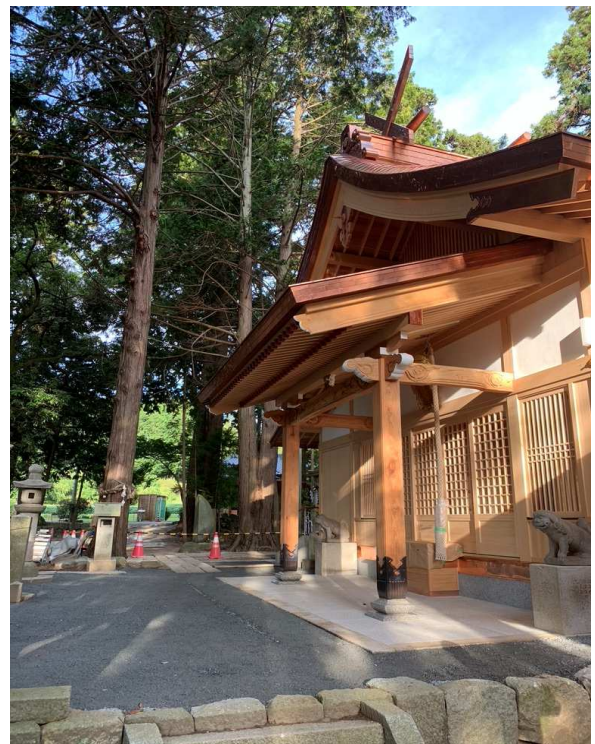
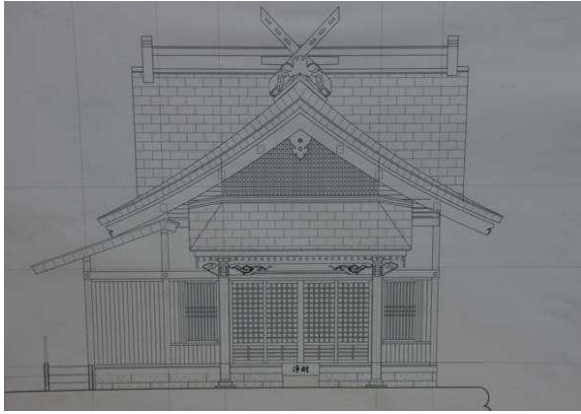
株式会社 竹澤建築設計事務所

〒174-0071 東京都板橋区常盤台2-2-2

TEL 03(5392)3544

FAX 03(5392)3529

外 観 (向拝殿)



神額と本坪鈴



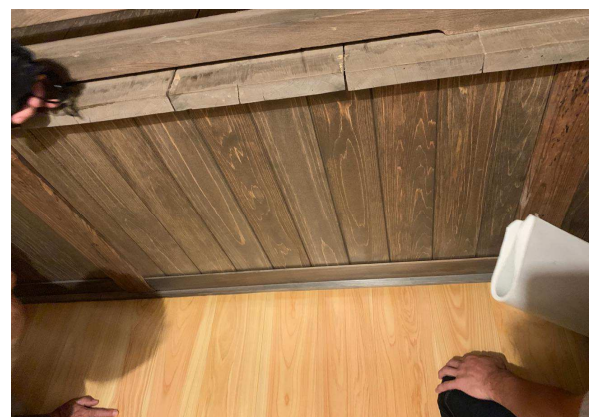
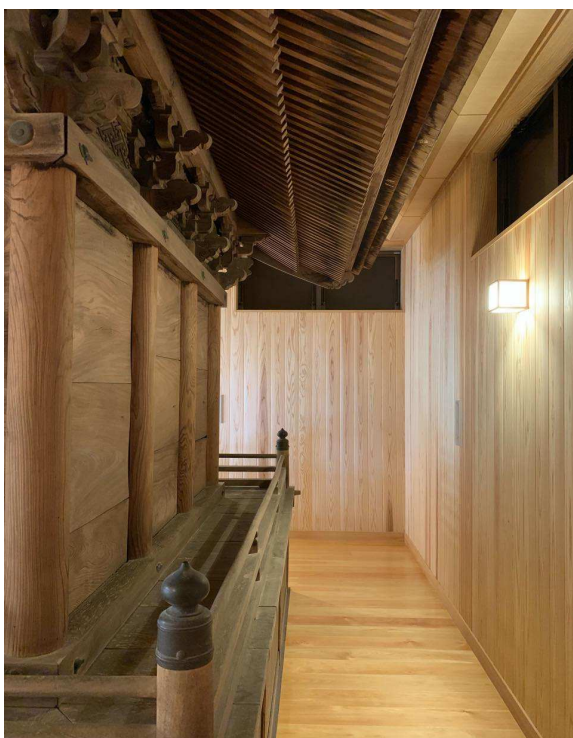
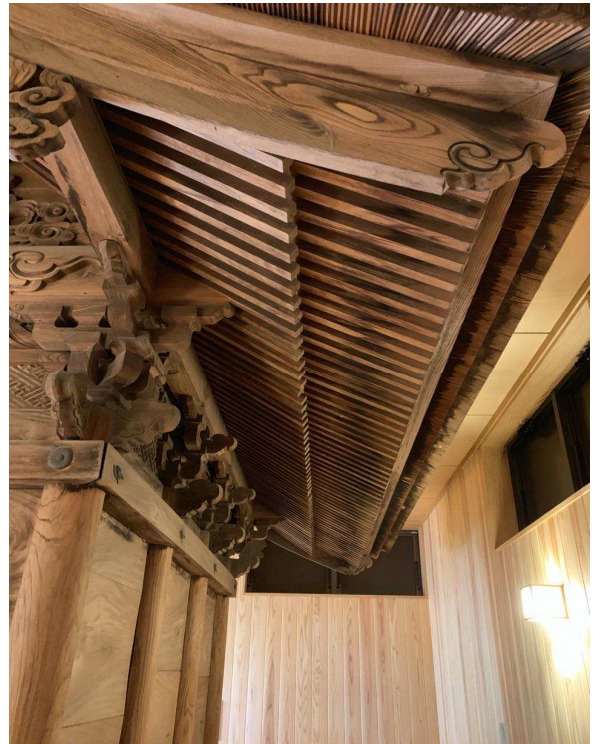
内 観（内拝殿）



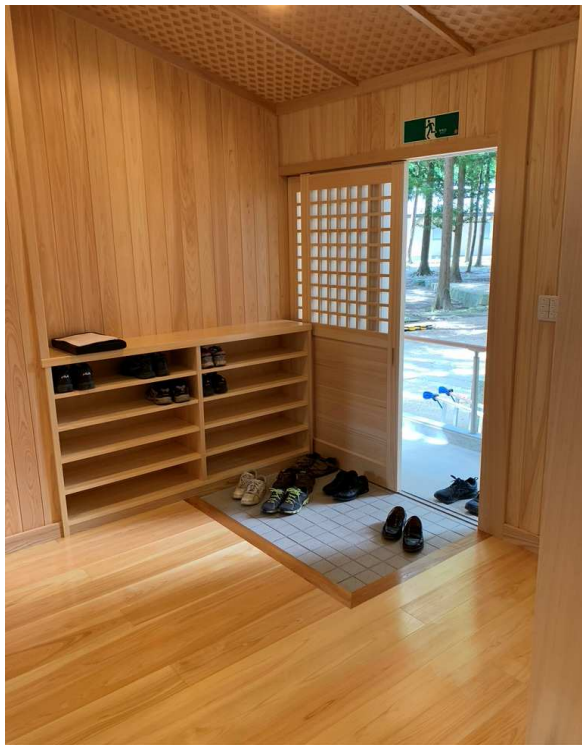
本殿（三社造り）



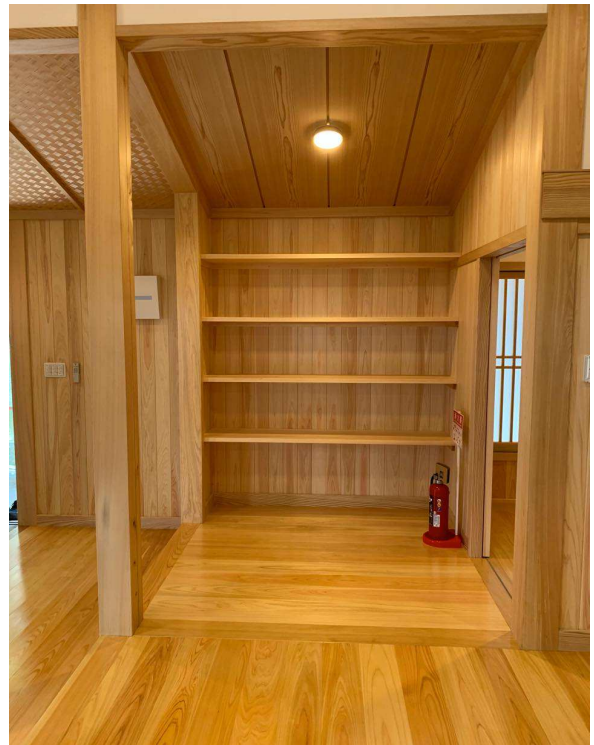
本殿まわり



出入口



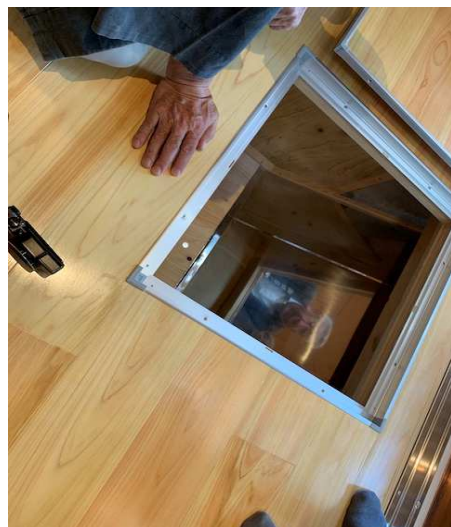
神饌所



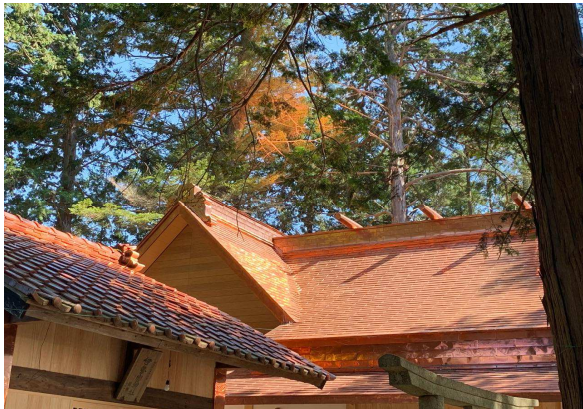
多用途の室



賽銭取出し口



外 観



伊勢宮神社



舞台（神楽殿）



盤名奉建築殿社

[illegible]

金三十五万内
茅野建夫
大島 彰
小林道小孫一義
城田周一
金三十万内
内堀敏造(株)
松岡功(株)
小松 清
金二十五万内
中村節男良江
小林久策
金二十万内
三重県倉澤全靖
智恵共倉澤直樹
高坂正己
飯島厚史
宮澤卓美
金十六万内
中塚栄一
金十五万内
東京都窪田公彦
唐澤義明
土村芳彦
森谷匡彦
北林由行
吉川秀幸
下島洋幸
小林勝朗
小林捷夫
山田敬郎

久保田省吾
酒井 彰
下島民雄
長谷川清志
林 弘明
平澤清美
堀内藤母
堀内富重
北澤 昇
小林明彦
小林幸平
下島 修
中村寿夫
宮脇康治
池上賢治
小野伸也
窪田 遼夫
小池昭男
小林正一
小池 宏
下島芳幸
田澤正彦
宮脇一章
宮脇登志男
宮脇幸男
森谷雅人
芦部健児
唐澤幸彦
下平達二
田中利寛
中林祥夫
小澤 勉
唐澤 隆
渋谷康人
堀内克美

金七万内
矢澤博旦
木下狂七
小池和夫
小池良樹
土村和幸
佐藤利春
宮脇正志
森谷友子
下平篤規
金六万内
荒井明治
高坂繁富
山田太郎
熊崎 徹
堀内克敏
金五万内
東京都園藤涼
飯田元久(株)
東京都池田光太郎
東京都池田英也
三重県倉澤道康
香川小林昌樹
山口トト
東京都中山達子
飯田北志子
保野林 共男
三ツバタ才(株)
宮澤健悟
石上工務店

八田晴夫
林 邦夫
原 和則
原 武史
原 章一
平澤芳宏
吉澤正博
堀内貞孝
丸山 茂
水野吉一
森谷 裕
安田 裕
山口 守
山田 一郎
芦部 昇
阿部 晋也
有賀 優
伊藤 馨
岩切 徹
上山剛夫
唐澤 彰
唐澤 浩
北村憲治
久保田 真
小林忠孝
小林次雄
小林崇生
堀久周
下島 勇
下島博吉士
下村 敦
高橋 忍
高谷多美子
土村貴美子
庭野晴夫
萩原堂正

小林尚子
鈴木直人
平澤 厚
堀内藤子
宮脇和榮
宮脇和真
宮脇寿宏
宮脇寅一
宮脇 遼
宮脇 正人
宮脇 博
宮脇英計
宮脇良造
森谷政司
芦部 治
芦部和仁
芦部三知江
芦部延男
芦部匠文
芦部博男
芦部安衛
池上憲夫
打木昭浩
臼田堅一
小林孝亮
小林茂美
小林静子
小林莊重
小林 勉
小林直虎
渋谷栄一
下平 昭
下平和宏
下平昌一郎
下平敏雄
下平 隆

北原久男
北原一男
北原 学
北村健二
高坂 彰
高坂憲二
久保田育夫
久保田 純
小林勝彦
小林啓介
関島英典
中村昭二
原 岩雄
堀内 陽
堀内 明
堀内一治
堀内和幸
堀内 清
堀内重孝
堀内祥平
堀内一二三
堀内 誠
堀内 聖
堀内政宏
堀内 守
堀内泰義
堀内善之
山田研一
山田順太郎
山田治男
山田正志
市村 強
林 政男
堀内佳美
細田由美
宮下盛男

東京都山田雅雄(株)
山口谷正保(株)
大 成
三ツバタ才(株)
三ツバタ才又長野
三ツバ才倉澤直弘
阿部 誠
小池好高
佐藤秀明
細田智也
古屋淳二
金五十万内
春日宗夫

目 次

日方磐神社本殿改築建設趣意書	1
工事関係者	2
スケジュール	3
起工式	4
御神木 伐採	7
仮遷座	10
基礎工事	14
社殿工事(前半)	19
上棟式	21
社殿工事(後半)	25
竣工式	31
遷座式	34
祝賀会	39

日方磐神社本殿改築建設趣意書

拝啓 時下益々ご清栄の段慶賀に存じます。

平素より日方磐神社に崇敬の念篤く護持運営にご理解を賜り、誠に有り難く厚く御礼申し上げます。

日方磐神社は古く、本殿に建御名方命（たけみなかたのみこと）、誉田別命（ほんだわけのみこと）、天児屋根命（あめのこやねのみこと）、の三神を奉斎し、境内に蚕玉神社、伊勢宮神社、太子講堂、石宮の伊勢宮三体、天神様、伊邪那岐命、伊邪那美命の神々を肥る嗣と、また石碑を配し、春の祈年祭（二日間）秋の例祭（二日間）、新嘗祭のほか、恒例の祭りが執り行われ、田切六自治会の氏子の方々の心の拠りどころとなり、信州田切の郷にご縁のある崇敬者皆様には、御奉拝また御奉賛を賜っているところであります。

神社の創建は駒ヶ根市大御食神社の社宝『神代文字』に明記され、今から千七百五年前の仁徳二十年秋九月とされています。かように長い歴史の中で幾度かの補修や改築がなされたものと思われませんが、現状は雨漏りによる腐食が進み早急の修復が急務であり、近年は耐震強度を求められることにもなりましたので、先般氏子をはじめとする方々に現状を説明申し上げ、社殿改築のご提案をいただきました。

平成二＋六年に老朽化した社務所の改築に続く大きな事業となりますが、早速に神社本殿改築建設準備委員会を設立し、現在は建設委員会に格上げして、今後は建設委員会の皆様を中心にした計画案に基づき取り組んでまいります。

どうぞかくなる事情をご理解賜り、ご協賛をいただきたく切にお願い申し上げます。

敬具

平成三十年 三月 吉日

日方磐神社

宮 司 茅野 建夫

日方磐神社本殿改築建設委員会

委員長 倉澤 公則

建設委員

土村芳彦 中塚邦一 小松 清 小林捷之 内山喜夫 渋谷康人 芦部 健兒 安田 稔
小木曾 肇 原 英夫堀内辰男 井口禎徳 原 茂和 下島民雄 小林幸平 宮脇一幸
小林 勉 山田敏郎 高坂正巳 飯島厚史 小林久栄 小澤勉

建設工事関係者

執行齋主

茅野 建夫

日方磐神社建設委員会

建設委員長

倉澤 公則

建設副委員長

土村 芳彦

中塚 邦一

北原 一男

宮下 務

建設委員

小松 清

渋谷 康人

北村 憲治

高橋 正己

芦部 健兒

原 英夫

山谷 文雄

原 茂和

小林 明彦

小林 久栄

下島 民雄

熊崎 徹

山田 敏郎

小林 幸平

堀内 辰男

小澤 勉

宮脇 一幸

宮脇 登志男

飯島 厚史

小林 勉

小林 勝朗

下平 敏雄

安田 稔

中塚 京一

小林 捷之

荒山 正弘

中林 祥夫

下平 文隆

小木曾 肇

井口 禎徳

内山 善夫

堀内 勝好

堀内 政宏

設計・施工業者

棟梁

上山 仁男

設計監理

株式会社アース下平設計

代表取締役 下平 文隆

工事請負人

下平建設・石上工務店

特定建設工事共同企業体

代表

下平 和宏

大工

上山 側夫

吉川 金重

吉川 竜彦

森脇 一忠

堀内 清

有賀 涉

彫刻

岡村 都

揮毫

北澤 祥弘

工事スケジュール

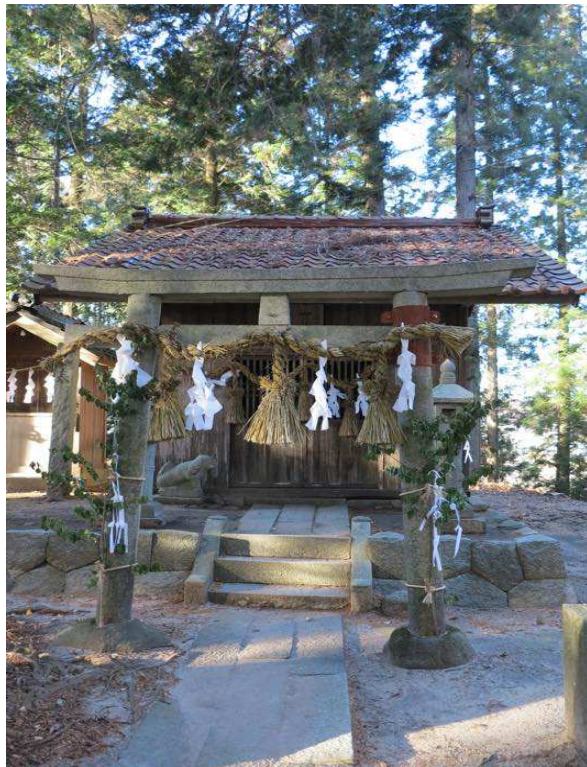
起 工 式

平成30年12月9日、日方磐神社 社殿建設 起工式が行われました。

向拝殿



伊勢宮神社





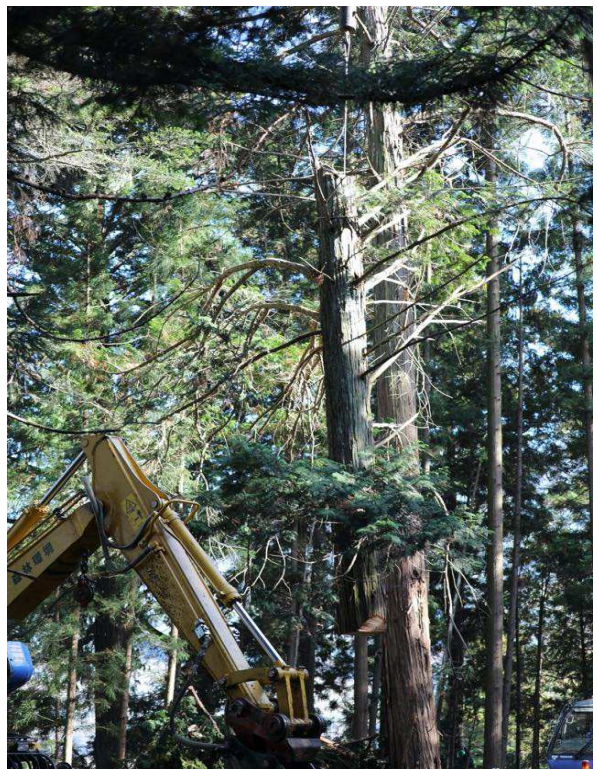
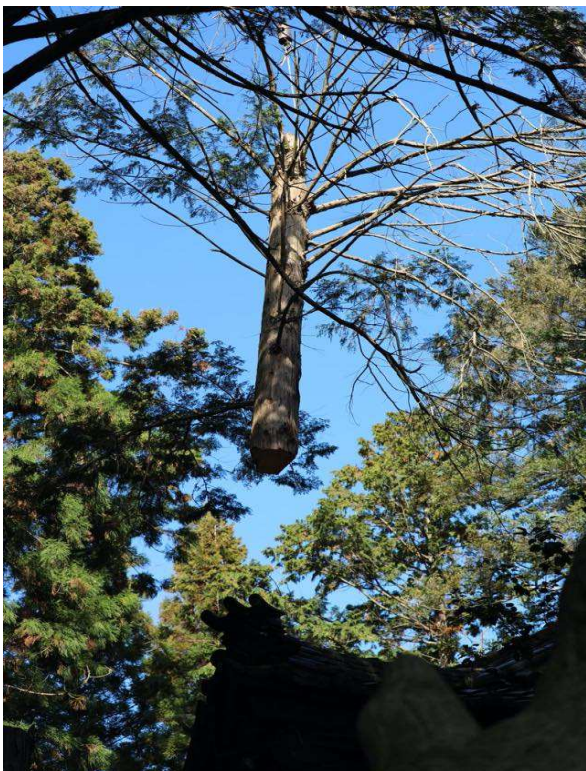
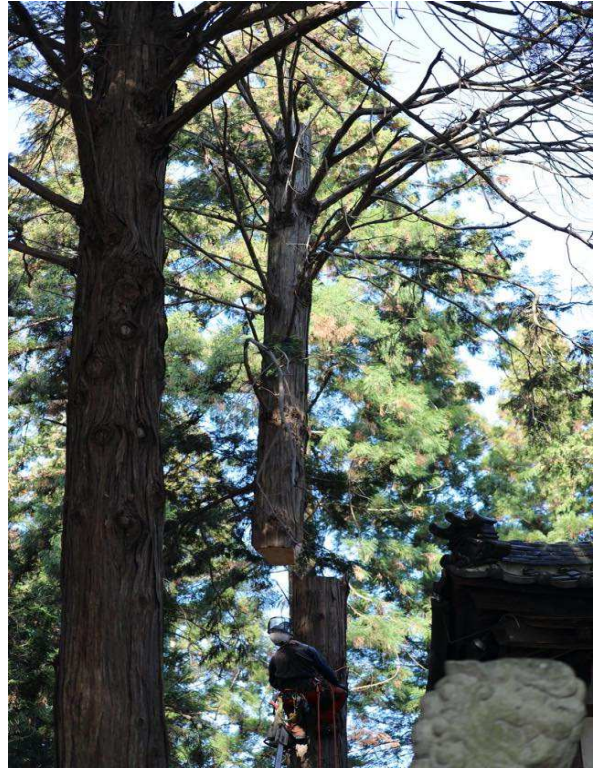


直 会



御神木 伐採

平成30年11月21日より新社殿建築に使用する為に、境内の樹齢100年以上の御神木を伐採致しました。







伐採前

伐採後



仮社殿への仮遷座

平成31年 1 月12日、ご神体を社殿から仮殿に移す仮遷座式が行われました。



頭に紐とたすきを掛けた人だけが
ご神体に触れる事が出来ます。



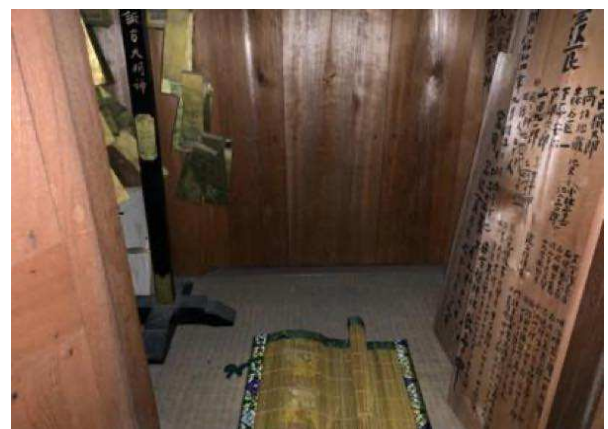




直 会



祭壇の飾物



社殿解体・基礎工事

平成31年 1 月21日 解体工事が開始されました。



平成31年 2 月 3 日 解体工事が完了しました。



平成31年 2月15日 祭壇の曳家(建物をそのまま移動)

祭壇の下にコロを敷いて階段(南側)の方へ移動されました。

ジャッキで持ち上げレールを引いて、コロを滑らせて移動させていました。



ジャッキは、人が引っぱっていました。



平成31年 2月21日 基礎工事開始

社殿が設置されていた土台の石積み、抜根が完全に撤去されました。
ベース型枠、配筋を設置する前に捨てコンが打設され、
丸セパの上にユニット鉄筋を載せ、結束線で固定されていました。



平成31年 3月15日 立上り型枠、配筋

立上り型枠、配筋をしてコンクリートを流し込み乾燥させました。
脱型して土間配筋、土間打設。周りを埋め戻し、
社殿北側の御神木を伐採して拡大したので随分広くなりました。



平成31年 4 月12日 社殿部分の基礎工事は完了

社殿型枠も外されて、社殿基礎工事が完了しました。

一段高い所が祭壇の設置場所になります。



平成31年 4 月15日 祭壇の曳家

移動させていた祭壇を新社殿の設置場所まで曳家が行われました。





平成31年 4 月 22日 社殿南側の土間配筋、土間打設

社殿南側、拡張した土間の配筋、打設が始まっていた。



平成31年 5 月 2 日 社殿南側の参拝所の整地、スロープ設置

社殿南側の参拝所が整地され、新たにスロープが設置されています。



社殿工事 前半

平成31年 4 月22日 社殿組手工事

社殿を飾る彫刻も佳境となってきました。



平成31年 5 月10日 社殿飾り彫刻

社殿の組み立てが始まり、屋根の一部に鉄骨が使われ、
柱には神社らしく「大安吉日」の保護紙が巻かれていました。





平成31年 5 月19日 社殿屋根葺き工事
社殿屋根の外観が出来ていました。



平成31年 5 月22日 社殿内装、外壁工事始まる
社殿の内装、外壁工事が始まっていました。



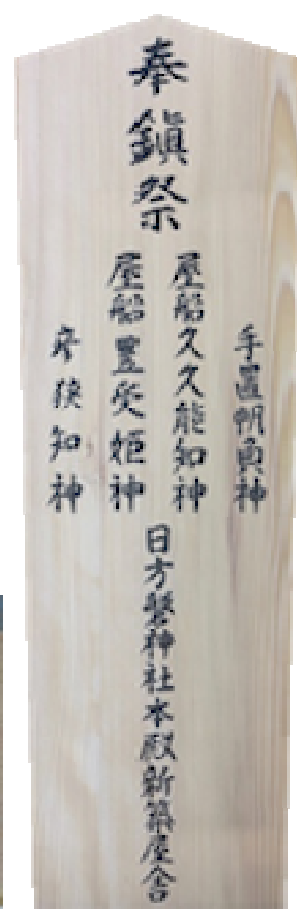
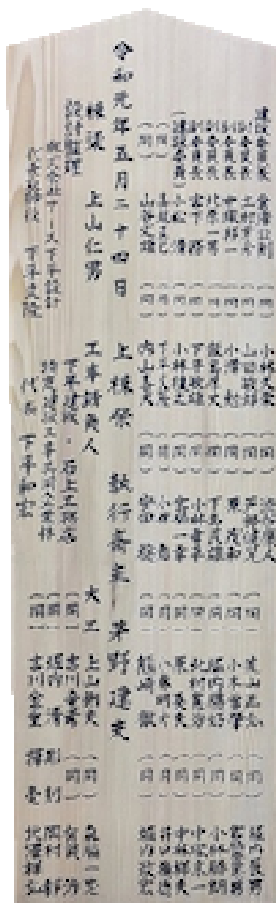
平成31年 5 月24日 上棟式
上棟式の記録を参照

上棟式

令和元年5月24日 上棟式

令和元年 5 月 24 日 17 時より上棟式が行われました。

最近では珍しい槌打ちの儀、餅まきの儀も行われ、最後に観衆に餅まきも行われました。



奉鎮祭

屋船久久能知神
屋船豊受姫神

彦狭知神

手置帆負神

日方磐神社本殿新築屋舎

令和元年五月二十四日

棟梁 上山仁男

設計監理

株式会社アーノ下平設計

代表取締役 下平文隆

工事請負人

下平建設・石上工務店

特定建設工事共同企業体

代表 下平和宏

上棟祭

執行齋主

茅野建夫

建設委員長

金澤公則

(同)

小林久栄

(同)

渋谷康人

(同)

荒山正弘

(同)

堀内辰男

副委員長

土村芳秀

(同)

山田敏郎

(同)

戸部健児

(同)

小本智肇

(同)

宮脇意男

副委員長

中塚邦一

(同)

飯島厚史

(同)

原茂和

(同)

堀内勝好

(同)

小林勝朗

副委員長

北原一男

(同)

飯島厚史

(同)

下島民雄

(同)

北村寛治

(同)

中塚京一

(同)

宮下務

(同)

下平敏雄

(同)

小林章平

(同)

原英夫

(同)

中塚祥夫

(同)

小松清

(同)

小林捷之

(同)

宮脇一幸

(同)

小林明彦

(同)

井口植徳

設計監理

株式会社アーノ下平設計

代表取締役 下平文隆

工事請負人

下平建設・石上工務店

特定建設工事共同企業体

代表 下平和宏

上棟祭

執行齋主

茅野建夫

建設委員長

金澤公則

(同)

小林久栄

(同)

渋谷康人

(同)

荒山正弘

(同)

堀内辰男

副委員長

土村芳秀

(同)

山田敏郎

(同)

戸部健児

(同)

小本智肇

(同)

宮脇意男

副委員長

中塚邦一

(同)

飯島厚史

(同)

原茂和

(同)

堀内勝好

(同)

小林勝朗

副委員長

北原一男

(同)

飯島厚史

(同)

下島民雄

(同)

北村寛治

(同)

中塚京一

(同)

宮下務

(同)

下平敏雄

(同)

小林章平

(同)

原英夫

(同)

中塚祥夫

(同)

小松清

(同)

小林捷之

(同)

宮脇一幸

(同)

小林明彦

(同)

井口植徳

設計監理

株式会社アーノ下平設計

代表取締役 下平文隆

工事請負人

下平建設・石上工務店

特定建設工事共同企業体

代表 下平和宏

上棟祭

執行齋主

茅野建夫

建設委員長

金澤公則

(同)

小林久栄

(同)

渋谷康人

(同)

荒山正弘

(同)

堀内辰男

副委員長

土村芳秀

(同)

山田敏郎

(同)

戸部健児

(同)

小本智肇

(同)

宮脇意男

副委員長

中塚邦一

(同)

飯島厚史

(同)

原茂和

(同)

堀内勝好

(同)

小林勝朗

副委員長

北原一男

(同)

飯島厚史

(同)

下島民雄

(同)

北村寛治

(同)

中塚京一

(同)

宮下務

(同)

下平敏雄

(同)

小林章平

(同)

原英夫

(同)

中塚祥夫

(同)

小松清

(同)

小林捷之

(同)

宮脇一幸

(同)

小林明彦

(同)

井口植徳

設計監理

株式会社アーノ下平設計

代表取締役 下平文隆

工事請負人

下平建設・石上工務店

特定建設工事共同企業体

代表 下平和宏

上棟祭

執行齋主

茅野建夫

建設委員長

金澤公則

(同)

小林久栄

(同)

渋谷康人

(同)

荒山正弘

(同)

堀内辰男

副委員長

土村芳秀

(同)

山田敏郎

(同)

戸部健児

(同)

小本智肇

(同)

宮脇意男

副委員長

中塚邦一

(同)

飯島厚史

(同)

原茂和

(同)

堀内勝好

(同)

小林勝朗

副委員長

北原一男

(同)

飯島厚史

(同)

下島民雄

(同)

北村寛治

(同)

中塚京一

(同)

宮下務

(同)

下平敏雄

(同)

小林章平

(同)

原英夫

(同)

中塚祥夫

(同)

小松清

(同)

小林捷之

(同)

宮脇一幸

(同)

小林明彦

(同)

井口植徳

設計監理

株式会社アーノ下平設計

代表取締役 下平文隆

工事請負人

下平建設・石上工務店

特定建設工事共同企業体

代表 下平和宏

上棟祭

執行齋主

茅野建夫

建設委員長

金澤公則

(同)

小林久栄

(同)

渋谷康人

(同)

荒山正弘

(同)

堀内辰男

副委員長

土村芳秀

(同)



上棟式 直会



社殿工事 後半

令和元年 6 月 2 日 参拝所、屋根の銅板張り

屋根には銅版が取り付けられていました。

また、参拝所が設置され、柱には彫り物が飾られていました。



令和元年 6 月 13 日 鬼瓦のチェック

社殿のシートが外されて参拝所が見えるようになっていた。

屋根に取り付ける鬼瓦のサイズ・チェックが行われていた。

また、屋根の銅板張りも随分と進んで、外板張りも行われていた。



令和元年 6 月22日 祭壇の設置

社殿外壁の工事もほぼ終わり、祭壇のブルーシートも外され本来の位置に設置されていました。

いよいよ内装工事が本格化して来ました。



令和元年 7 月21日 鬼瓦の設置

社殿屋根の工事もほぼ終わり、全て銅板で葺かれていました。

また、鬼瓦、鯉木（かつおぎ）も銅製の物が設置されていました。



令和元年 7月27日 社殿の足場が外れました

社殿足場が外れ、外観が見渡せるようになりました。

残りは、内装と参拝所の整備だけとなりました。



令和元年 8 月24日 完成まじか

社殿前の車椅子用のスロープ、参拝所の整備が進んでいました。
神楽殿の屋根工事も終了して、落ち着いた色合いでした。



令和元年 8 月31日 完成、引き渡しまであと10日

いよいよ追い込み、社殿前の参拝所の整備が進んでいました。
拝殿には、新しい日方磐神社の額が飾られていました。
社殿内部は、工事も終わり清掃も終わっている様でした。

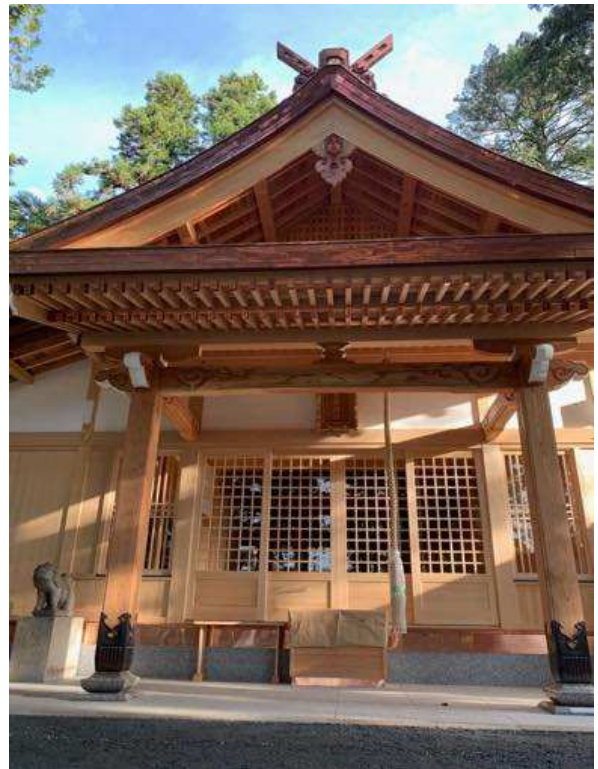


令和元年 9 月 6 日 完成、引き渡しまであと 5 日

社殿前の参拝所の整備が終わり、社殿周りも砂利が敷かれて整備
されていました。

また、社殿前には、保管されていた狛犬や灯籠も元の場所に戻され、
お賽銭箱、鈴の取り付けが行われていました。

バリアフリーも考慮され、参拝しやすい拝殿に仕上がっています。



令和元年 9月10日 社殿前にて完成、引き渡し式

工事業者と建設委員会、氏子役員が社殿前に集まり、完成引渡し式が行われた後、内覧会が行われました。

電気設備に火災警報、空調と現代の設備も導入されて、これから100年持ちこたえる仕様になっていました。

賽銭箱が面白い。盗難対策の為に、お賽銭を入れると社殿地下の賽銭箱に格納されるので盗まれ無い作りになっています。

また、バリアフリーも施されています。



竣工式（清祓いの儀）

令和元年 9 月14日、平成30年12月 9 日の起工式に始まった日方磐神社の社殿建設工事も竣工式を迎えました。



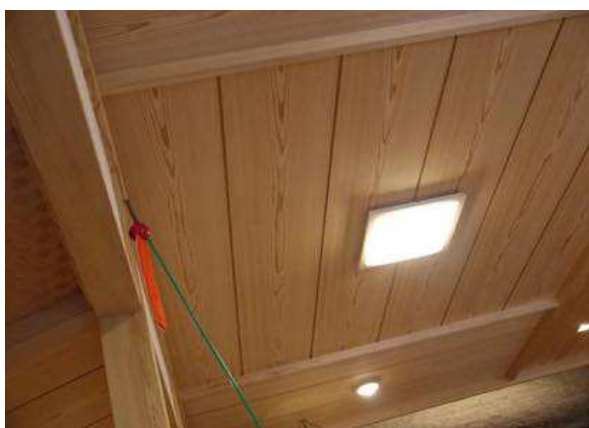
社務所に設けられた仮社殿前にて受付を行い、関係者は手水の儀を済ませて社殿に向かいました。







竣工式が始まり、宮司により四隅に神殿のお守りである御富貴玉(みふきだま)が吊るされました。



仮社殿から新社殿への本遷座式

令和元年 9 月14日、起工式に続き、社殿遷座式が行われました。

社殿遷座式とは、改築の際、仮殿に移していた御神体を社殿に移す遷座式です。社務所に移した仮社殿にて宮司により遷御の祝詞が奏上され、遷座式は始まった。



召立の儀により松明、御太刀、御弓、御弓矢が役どころに渡されて、遷御の儀が始まった。導楽が奏でる中、ご神体は白い絹垣に囲まれて、「オオー」と威儀を正す警蹕をかける中、前導に導かれて新社殿に向かいます。





ご神体が、新社殿に入遷し祭壇へ奉安された後、絹垣が外されました。



その後、大祭式に準じ氏子による献饌が捧げられ、神事が執り行われました。



奉納神楽では、獅子舞保存会による獅子舞、神職による米撒き・両扇の舞他が奉納されました。



最後に玉串奉納があり、宮司によりご神体を奉納した扉を閉扉して遷座式は終了しました。



祝 賀 式

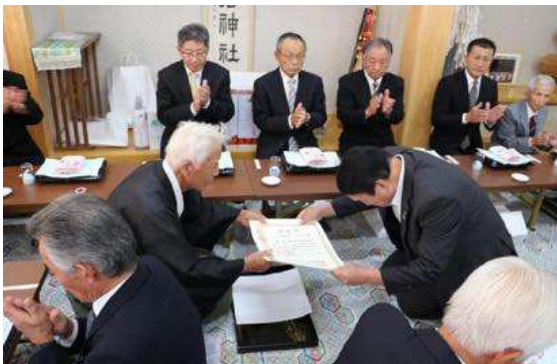
竣工式、遷座式と無事終了し、社務所に関係者が集い盛大な祝賀会が催されました。氏子総代の司会により祝賀会が始まり、はじめに氏子副総代長が開会宣言を行い、今回の日方磐神社の建設の施主である建設委員長、日方磐神社宮司、工事関係者を代表して設計者、氏子総代理の挨拶があり、工事経過報告が建設副委員長にてなされました。





引き続き、今回の建設に多大なる協力を頂きました設計者（株）アース下平設計、
施工者 下平・石上特定建設工事共同企業体、高額寄進者に対して宮司より感謝状
が贈呈されました。

その後、感謝状を頂かれた方を代表して施工者から謝辞が述べられました。



来賓を代表して飯島町長(代理)から祝辞を頂きました。

いよいよ祝宴です。田切区長の発声により乾杯が行われて、祝宴が始まりました。

祝宴は、今回の建設計画が始まってから今日までの苦労話で盛り上がっていました。





最後に田切区自治会長の音頭により万歳三唱を行い、閉会の挨拶を持ちまして祝賀会が終了致しました。



制作 日方磐神社 本殿改築建設委員会
作成日 令和元年 1 2 月吉日
編集 岩切 徹

仮社殿から新社殿への本遷座式

令和元年 9 月14日、起工式に続き、社殿遷座式が行われました。

社殿遷座式とは、改築の際、仮殿に移していた御神体を社殿に移す遷座式です。社務所に移した仮社殿にて宮司により遷御の祝詞が奏上され、遷座式は始まった。



召立の儀により松明、御太刀、御弓、御弓矢が役どころに渡されて、遷御の儀が始まった。導楽が奏でる中、ご神体は白い絹垣に囲まれて、「オオー」と威儀を正す警蹕をかける中、前導に導かれて新社殿に向かいます。





ご神体が、新社殿に入遷し祭壇へ奉安された後、絹垣が外されました。



その後、大祭式に準じ氏子による献饌が捧げられ、神事が執り行われました。



奉納神楽では、獅子舞保存会による獅子舞、神職による米撒き・両扇の舞他が奉納されました。



最後に玉串奉納があり、宮司によりご神体を奉納した扉を閉扉して遷座式は終了しました。



祝 賀 式

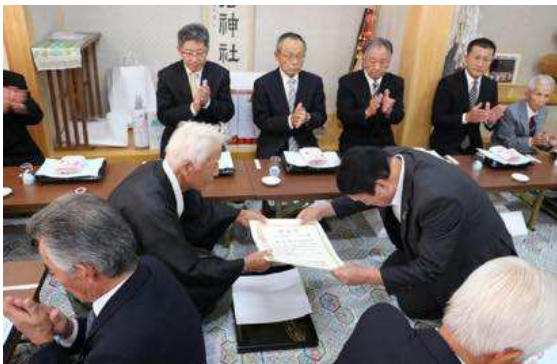
竣工式、遷座式と無事終了し、社務所に関係者が集い盛大な祝賀会が催されました。氏子総代の司会により祝賀会が始まり、はじめに氏子副総代長が開会宣言を行い、今回の日方磐神社の建設の施主である建設委員長、日方磐神社宮司、工事関係者を代表して設計者、氏子総代理の挨拶があり、工事経過報告が建設副委員長にてなされました。





引き続き、今回の建設に多大なる協力を頂きました設計者（株）アース下平設計、
施工者 下平・石上特定建設工事共同企業体、高額寄進者に対して宮司より感謝状
が贈呈されました。

その後、感謝状を頂かれた方を代表して施工者から謝辞が述べられました。



来賓を代表して飯島町長(代理)から祝辞を頂きました。

いよいよ祝宴です。田切区長の発声により乾杯が行われて、祝宴が始まりました。

祝宴は、今回の建設計画が始まってから今日までの苦労話で盛り上がっていました。





最後に田切区自治会長の音頭により万歳三唱を行い、閉会の挨拶を持ちまして祝賀会が終了致しました。



制作 日方磐神社 本殿改築建設委員会
作成日 令和元年 1 2 月吉日
編集 岩切 徹